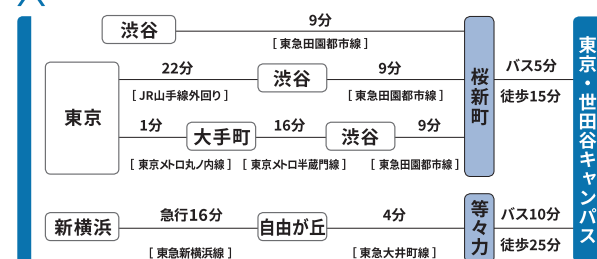




NIPPON SPORT SCIENCE UNIVERSITY
GRADUATE SCHOOL
GUIDE BOOK 2027

アクセス ※下記の時間はおよその目安です。

東京・世田谷キャンパス



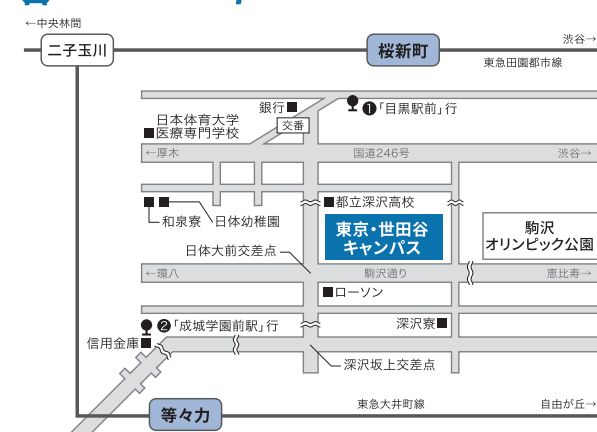
東急田園都市線「桜新町」駅より、徒歩15分またはバス5分

①「目黒駅前」行、「日本体育大学前」にて下車

東急大井町線「等々力」駅より、徒歩25分またはバス10分

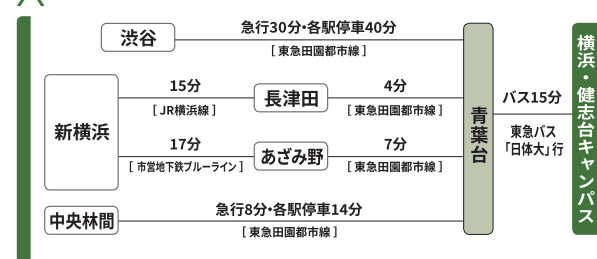
②「成城学園前」行、「日本体育大学前」にて下車

Access Map



〒158-8508 東京都世田谷区深沢7-1-1 TEL:03-5706-0900(代) / FAX:03-5706-0823(代)

横浜・健志台キャンパス

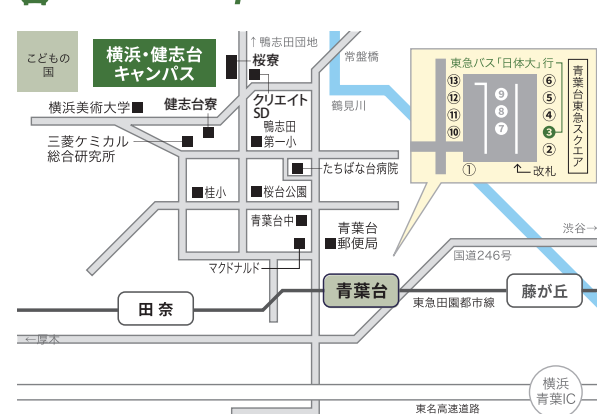


東急田園都市線「青葉台」駅より、バス15分

改札口を出て右に、バスロータリーに沿って歩き

3番乗り場 東急バス「日体大」行に乗り、終点にて下車

Access Map



〒227-0033 神奈川県横浜市青葉区鶴志田町1221-1 TEL:045-963-7900(代) / FAX:045-963-7903

日本体育大学大学院案内 2027

身体総合学術研究科

身体に纏わる知を探究し、未来を拓く

Graduate School Guide 2027

学位プログラム

体育科学	体育実践学	コーチング科学	コーチング実践学
教育学	アスレティック トレーニング学	柔道整復学	救急災害医療学

建学の精神

體育富強之基

たいいくふきょうのもとい

真に豊かで持続可能な社会の実現には、心身ともに健康で、

体育スポーツの普及・発展を積極的に推進する

人材の育成が不可欠である。

学術文化発展のために

日本体育大学大学院は、

体育及びスポーツ、教科教育並びに保健医療に関する高度の学術研究により、

その深奥を究め、学術の応用に貢献して競技力向上、

教科教育の実践並びに保健医療に関する研究を推進していきます。

また、高度な学識と研究能力を持った専門家の養成と、

社会の多様な分野で活躍し得る人間の育成を目標とし、

スポーツ文化の進展、新たな教科教育学の構築並びに

保健医療の推進と人類の友好・親善に貢献することを目的としています。

Mission

社会的使命：果たすべき役割、存在意義

本学は、「建学の精神」の具現化、即ち、「体育・身体活動・スポーツを通じた健康で豊かな社会・人づくりの実現」のため、次の使命を果たす。

1. 体育スポーツ学、教育学、保健医療学分野における先駆的・実践的研究を通じて、人間の「活力ある身体」について、その真理を探究する。
2. 国際社会・地域社会において、先導的役割を担う有為な人材を輩出し、人類共通の願いである、幸福で豊かな社会の構築に資する。
3. スポーツ文化の深化・発展に努め、オリンピック・パラリンピックムーブメントの精神の実践・普及を推進し、スポーツのもつ様々な「力」を活用して、国際平和の実現に寄与する。
4. 高度な国際競技力を有し、他者の「生き方」モデルとなる優れたアスリートを育成するとともに、人間の心身の可能性（生命の輝きや身体の躍動）を追究し、活力に満ちた社会の創生に貢献する。

Vision

目標：果たすべき姿、将来像

本学は、その社会的使命を果たすとともに、「身体に纏わる文化と科学の総合大学」として、かかる分野のリーディング・ユニバーシティを目指し、「教育」「研究」「社会貢献」について、次の目標を定める。

【教 育】

人間の「活力ある身体」を熟知し、その多様性を受け容れ、地球市民として各分野で活躍できるグローバルリーダーを育成する。

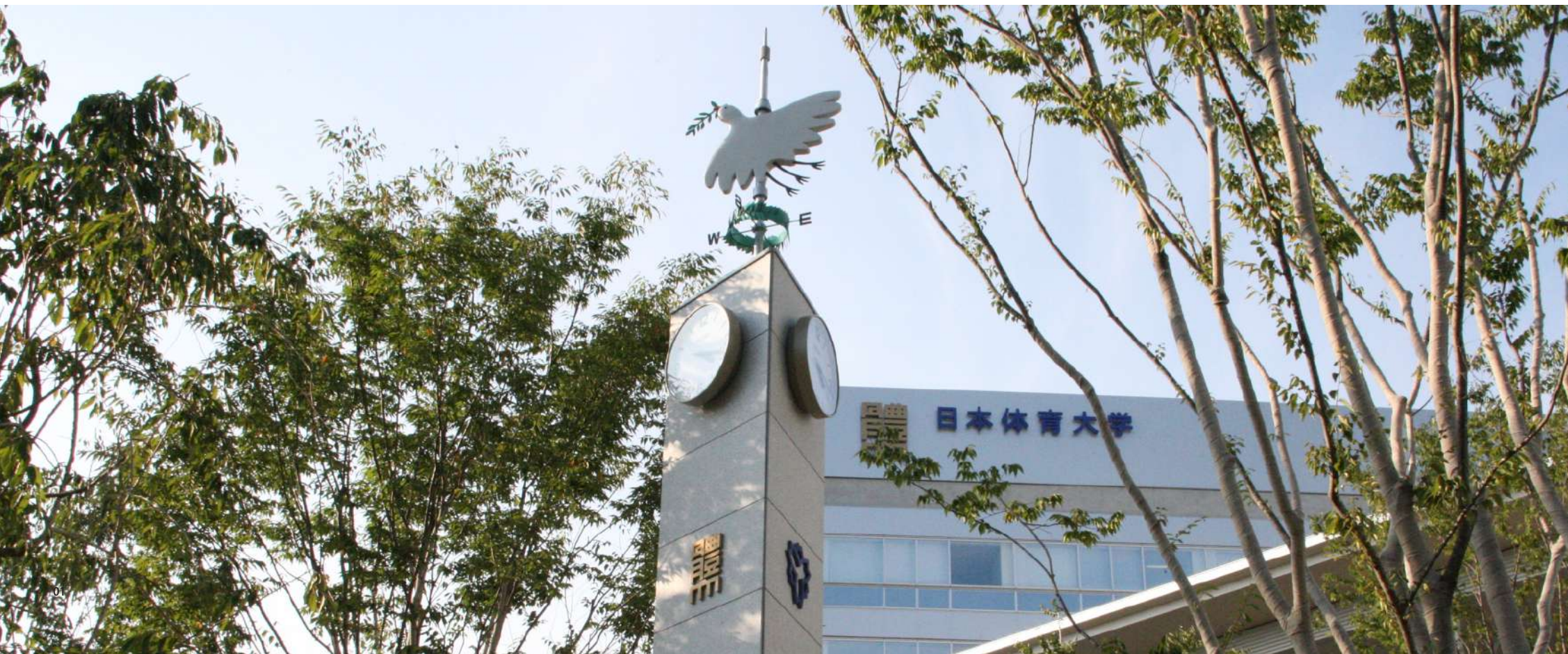
そのため、教養及び専門的知識・技能の修得、涵養はもとより、コミュニケーション力（言語・表現力）、課題発見・解決力、創造的思考力などを身につけ、複眼的な視点をもって協働・共生のできる人材を養成する。

【研 究】

真摯な基礎研究と課題解決に向けた実践的研究を高い水準で展開し、各専門分野の連携を図りながら、学際的研究に取り組むとともに、その成果を広く社会に発信する。とりわけ、体育・身体活動・スポーツの実践から生じる諸問題について、人文科学・社会科学・自然科学の諸分野から総合的に分析・検討を加え、得られた新たな知見や解決法を実践現場に還元する双方向的研究活動を推進する。

【社会貢献】

あらゆるステークホルダーとの関係強化を図るとともに、国内外の諸機関との連携・協力関係を構築し、本学の教育・研究活動の成果、人的・知的財産などを還元する。これにより生涯学習の機会を提供し、地域の教育、福祉の発展に貢献するとともに、大学と社会との「知と技」の好循環を創出することにより、地域社会の力を引き出す大学として、その拠点を形成する。





身体総合学術研究所については、大学のHPに紹介しています！

2027 年度より
3 研究科・5 専攻から、1 研究科 1 専攻へ。学位プログラムを軸に、領域を超えて学ぶ体制へ再編成します。

Graduate School of Integrated Human Body Sciences

身体総合学術研究科

身体総合学術専攻

設置の趣旨及び特色

本研究科は、既設の体育学研究科、教育学研究科及び保健医療学研究科を改組し、学位プログラム制を導入する新たな大学院教育組織へ転換するものです。

近年、社会課題は多様化・複雑化しており、従来の単一分野による教育研究のみでは対応が困難となっています。こうした状況を踏まえ、本研究科では、従来の研究科単位の枠組みを超え、「身体」を共通基盤として、体育スポーツ、教育、保健医療など多様な専門分野からなる学位プログラムを一体的に編成することにより、分野横断的かつ専門的な教育研究を実現します。

各学位プログラムでは、養成する人材像を明確に定めるとともに、3つのポリシーに基づき、体系的な教育研究を展開します。学生は、各学位プログラムにおいて自身の専門分野を深く探究するとともに、分野横断的に学ぶ特色を生かし、多角的な視点から研究を展開することができます。

これにより、多様化・複雑化する社会課題に対応し、高度な専門性と分野横断的視点を備え、新たな価値を創造できる知のプロフェッショナル及び研究者を養成します。

学位プログラム制の導入

身体総合学術研究科 身体総合学術専攻

博士前期課程 修業年限：2 年

学位プログラム	取得学位
体育科学	修士（体育科学）
体育実践学	修士（体育実践学）
コーチング科学	修士（コーチング科学）
コーチング実践学	修士（コーチング実践学）
教育学	修士（教育学）
アスレティックトレーニング学	修士（アスレティックトレーニング学）
柔道整復学	修士（柔道整復学）
救急災害医療学	修士（救急災害医療学）

博士後期課程 修業年限：3 年

学位プログラム	取得学位
体育科学	博士（体育科学）
コーチング科学	博士（コーチング科学）
教育学	博士（教育学）
柔道整復学	博士（柔道整復学）
救急災害医療学	博士（救急災害医療学）

研究科の特徴



高度な専門性
各学位プログラムで専門分野を深く探求する。



分野を横断する
他の学位プログラムの科目など分野横断的に学ぶことができる。

専門性に応じた学位を授与

多様化・複雑化する社会課題に対応

新たな価値を創造できる知のプロフェッショナル・研究者を育成する

学位プログラム



学位プログラム



体育学研究群

体育科学学位プログラム

	博士前期課程	博士後期課程
修業年限	2 年	3 年
募集人員	31 名 ※体育実践学学位プログラムとの合計	8 名
学位	修士（体育科学）	博士（体育科学）
修了要件	30 単位以上、修士論文	12 単位以上、博士論文

※コースによってキャンパスが変わります。

養成する人材

博士前期課程	体育スポーツに関する幅広い学識ならびに専門知識を習得し、体育スポーツの高度な指導力を有する指導者ならびに体育スポーツに関する専門知識と研究能力をもった高度職業人を養成する。
博士後期課程	体育スポーツに関連する普遍的並びに現代的問題の解決を目指し、幅広い学識と高度な専門的知識を有し、自立した教育者・研究者として高度の学術研究により国際社会に貢献できる人材を養成する。

学位プログラムの特色

博士前期課程	博士後期課程
・ 6 つの専門コース（教育研究の柱となる領域）による高度な専門性の育成 研究領域の柱として、体育科学の主要領域に応じて設けられた 6 つの専門コース（「体育スポーツ文化社会学コース」「スポーツマネジメントコース」「ハイパフォーマンス科学コース」「健康スポーツ医科学コース」「身体教育・健康教育コース」「スポーツ国際コース」）では、各分野の専門性を深める高度な学修を可能としている。 ・ 柔軟な履修制度による主体的な学びの支援 他コースや他学位プログラムの科目も柔軟に履修できる。自らの研究テーマや興味・関心に応じて必要な科目を主体的に選択し、幅広い視野と高度な専門性を取得することを可能としている。	・ 5 つの専門コース（教育研究の柱となる領域）による高度な専門性の育成 体育科学の主要領域ごとに設けられた 5 つの専門コース（体育スポーツ文化社会学コース、スポーツマネジメントコース、ハイパフォーマンス科学コース、健康スポーツ医科学コース、身体教育・健康教育コース）では、各分野の専門性を深めるため、最先端の研究課題への取り組みや高度な専門知識の習得を目指し、独立した研究能力と論文執筆力を養う。 ・ 研究主導型の学びと論文作成力の強化 博士論文執筆を中心とした教育を展開し、自身の研究テーマに即した論文構想や研究計画の立案・発表・議論を段階的に行う。複数教員とのディスカッションを通じて、多角的な視点や批判的思考を養う。論理的説明力、議論展開力、独自研究の推進力など、研究者に必要な力が育成される。
①体育スポーツ文化社会学コース ②スポーツマネジメントコース ③ハイパフォーマンス科学コース ④健康スポーツ医科学コース ⑤身体教育・健康教育コース ⑥スポーツ国際コース	①体育スポーツ文化社会学コース ②スポーツマネジメントコース ③ハイパフォーマンス科学コース ④健康スポーツ医科学コース ⑤身体教育・健康教育コース

コース	研究領域
体育スポーツ文化社会学コース	スポーツ史、スポーツ人類学、スポーツ哲学、スポーツ社会学、武道学 など
スポーツマネジメントコース	スポーツマネジメント、スポーツライフマネジメント、スポーツビジネス、スポーツ政策 など
ハイパフォーマンス科学コース	トレーニング学、スポーツ生理学スポーツバイオメカニクス、スポーツ心理学、スポーツ栄養学 など
健康スポーツ医科学コース	運動疫学、スポーツ医学、運動生理学、発育発達学、機能解剖学、分子運動生理学、精神保健学、予防体育学 など
身体教育・健康教育コース	身体教育学、体育科教育学、健康教育学、保健科教育学、教育生理学、学校保健学、公衆衛生学、養護教諭学、インクルーシブ体育、教師教育学 など
スポーツ国際コース（博士前期課程のみ）	スポーツと国際協力、スポーツ開発支援、国際スポーツ政策、スポーツ文化交流、国際学校保健 など

体育学研究群

体育実践学学位プログラム

	博士前期課程
修業年限	2 年
募集人員	31 名 ※体育科学学位プログラムとの合計
学位	修士（体育実践学）
修了要件	30 単位以上、実践課題学期小論文Ⅰ・Ⅱ（修士論文に代る研究成果物） 修士論文に代えて「実践課題学期小論文」を作成します。これは、実践的課題について背景・目的を明確にし、課題解決の方法や実施過程、結果ならびに考察・結論を論理的に記述するものです。

※コースによってキャンパスが変わります。

養成する人材

体育スポーツ・健康に関連した現代的問題を解決するための必要とされる専門知識ならびに体育スポーツのマネジメント・健康教育の現場への幅広い視野を有し、現場で生ずる問題に対する研究能力を備えた高度な指導力を有する指導者ならびに高度職業人を養成する。

学位プログラムの特色

・ 2 つの専門コース（教育研究の柱となる領域）による高度な専門性の育成

研究領域の柱として、体育スポーツの実践の主要領域に応じて設けられた 2 つの専門コース（「スポーツマネジメントコース」「身体教育・健康教育コース」）では、体育スポーツの実践の場の課題解決に必要な理論的知識と実践的手法を体系的に修得することを目的とした科目「プラクティカム」を置き、理論と実践を融合した授業を通じて、現場で生じる課題の発見から解決方法の考案・実践までのプロセスを経験することで、課題解決力を養う。

・ 柔軟な履修制度による主体的な学びの支援

他コースや他学位プログラムの科目も柔軟に履修できる仕組みを整備。これにより、学生一人ひとりが自らの研究テーマや興味・関心に応じて必要な科目を主体的に選択し、幅広い視野と高度な専門性を取得することを可能としている。

①スポーツマネジメントコース ②身体教育・健康教育コース

コース	研究分野・領域
スポーツマネジメントコース	スポーツマネジメント、スポーツライフマネジメント、スポーツビジネス、スポーツ政策 など
身体教育・健康教育コース	身体教育学、体育科教育学、健康教育学、保健科教育学、教育生理学、学校保健学、公衆衛生学、養護教諭学、インクルーシブ体育、教師教育学 など



学位プログラム



体育学研究群

コーチング科学学位プログラム

	博士前期課程	博士後期課程
修業年限	2 年	3 年
募集人員	14 名 ※コーチング学実践学プログラムとの合計	3 名
学位	修士（コーチング科学）	博士（コーチング科学）
修了要件	30 単位以上、修士論文	12 単位以上、博士論文

東京・世田谷キャンパス 授業は集中講義や非対面形式等で実施する場合があります。

養成する人材

博士前期課程	コーチングに関する実践課題を学術的に問い直し、現場に還元可能な理論的知見を創出する能力を備えた人材を育成する。運動学習やトレーニング科学などの自然科学に加え、心理学・社会学・教育学・哲学等の人文・社会科学の視点を横断的に活用し、コーチングの質の向上や指導者育成の革新に寄与する研究を推進できる、国際的視野と探究心をもつ研究者・専門職の養成を目指す。
博士後期課程	コーチングの理論と実践の新たな地平を切り拓く知的リーダーとして、独自の問いを立て、既存の枠組みを批判的に検討しながら、新たな概念や方法論を構築・提案できる研究者、コーチデベロッパーを養成する。学際的かつ国際的な視座のもと、体育・スポーツにおけるコーチングの在り方に対して構造的変革をもたらし、教育・実践・政策領域におけるイノベーションを推進する能力を備えた、学術と実践を架橋する専門職研究者の育成を目指す。また、高い倫理観と対話力をもって、次世代の学びを導く支援者としても、社会に貢献できることを期待する。

学位プログラムの特色

博士前期課程

・教育研究の柱となる領域

コーチングを中心に、自然科学・人文社会科学・実践知を統合しながら、実践課題の構造化と理論化を進める。研究領域は主に以下の領域から構成される。

- ①コーチングの意味・価値・関係性を多角的に捉え、その理論的基盤を深化させる領域。
- ②自然科学の知見を取り入れ、科学的エビデンスを踏まえたコーチングの理解を発展させる領域。
- ③競技特性に応じた指導過程を分析し、種目固有のコーチング知を体系化する領域。

・柔軟な履修制度による主体的な学びの支援

他学位プログラムの科目も柔軟に履修できる仕組みを整備。これにより、学生一人ひとりが自らの研究テーマや興味・関心に応じて必要な科目を主体的に選択し、幅広い視野と高度な専門性を取得することを可能としている。

博士後期課程

・教育研究の柱となる領域

本学位プログラムは、体育・スポーツ領域におけるコーチングの理論・方法・実践を統合的に探究し、その高度化を図ることを教育研究の柱とする。既存の知見や指導モデルを批判的に検討するとともに、国際的かつ学際的視点に基づく新たな概念枠組みや方法論の構築を重視する。また、先端研究と実践現場を往還し得る学術的基盤を形成し、コーチングの体系的発展に寄与する教育・研究体制を整備する。

・研究主導型の学びと論文作成力の強化

博士論文執筆を中心とした教育展開。自身の研究テーマに即した論文構想や研究計画の立案・発表・議論を段階的に行う。複数教員とのディスカッションを通じて、多角的な視点や批判的思考を養う。論理的説明力、議論展開力、独自研究の推進力など、研究者に必要な力が育成される。

体育学研究群

コーチング実践学学位プログラム

	博士前期課程
修業年限	2 年
募集人員	14 名 ※コーチング科学学位プログラムとの合計
学位	修士（コーチング実践学）
修了要件	30 単位以上、実践課題学期小論文Ⅰ・Ⅱ（修士論文に代る研究成果物） 修士論文に代えて「実践課題学期小論文」を作成します。これは、実践的課題について背景・目的を明確にし、課題解決の方法や実施過程、結果ならびに考察・結論を論理的に記述するものです。

※東京・世田谷キャンパス 授業は集中講義や非対面形式等で実施する場合があります。

養成する人材

コーチング領域に関する幅広い学識と研究能力を基盤に、実践現場で高度な専門的指導を行うとともに、アスリートセンタード・コーチングを実践し、自己成長に主体的に取り組むロールモデルとして、他者の学びを支援できる人材を育成する。体系的な知識と柔軟な対応力をあわせ持ち、複雑な現場課題にも的確かつ創造的に対処できるコーチおよびコーチデベロッパーの養成を目指す。

学位プログラムの特色

・教育研究の柱となる領域

コーチング実践を中心に据え、現場で生じる課題を理論的に捉え直し、その改善につながる新たな実践知を創出することを研究領域の柱とする。技術・戦術、トレーニング、心理、学習者理解、内省など、多様な専門的知識を統合しながら、国際スポーツコーチングフレームワークに示された基本機能の質を高める指導デザインを構築する。さらに、コーチ自身の成長と学びを支える観点を重視し、アスリートセンタード・コーチングを遂行できる高度専門職およびコーチデベロッパーとしての実践力を探究する。

・柔軟な履修制度による主体的な学びの支援

他学位プログラムの科目も柔軟に履修できる仕組みを整備。これにより、学生一人ひとりが自らの研究テーマや興味・関心に応じて必要な科目を主体的に選択し、幅広い視野と高度な専門性を取得することを可能としている。



学位プログラム



教育学研究群

教育学学位プログラム

	博士前期課程	博士後期課程
修業年限	2 年	3 年
募集人員	10 名	3 名
学位	修士（教育学）	博士（教育学）
修了要件	30 単位以上、修士論文	12 単位以上、博士論文

東京・世田谷キャンパス ※授業は非対面形式を基本として実施します。

養成する人材

博士前期課程	教育に関する課題を見だし、その課題を追究し、絶えず教育活動の改善、その中でも特に授業の改善を行う「実践的な教育力」を備えた教師の養成を目指す。
博士後期課程	世界的視野で学校教育に関する課題を見だし、教育に関する理論と教育実践とを往還させた実践的検証力の育成を目指す。その過程において、教育に関する新しい研究領域を見いだす力とそれを解決していくための論理構成力の育成も目指す。

学位プログラムの特色

博士前期課程

・教育研究の柱となる領域

基礎教育学（教育制度学、教育行政学、教育心理学、カリキュラム論、道徳教育学、特別支援教育等）、国語科教育学、社会科教育学、算数・数学科教育学、理科教育学、体育科教育学の研究分野

・教育に関する基礎的理解から教育実践力、専門的探究へと展開する体系的科目構成

「基礎科目」については、教育行政学・教育心理学等の基礎教育学と教科教育学（教科の成立基盤や教材解釈等）の両方の科目を配置する。「教科実践科目」では国語・社会・算数・理科・体育の5教科の学習指導に関する実践的な内容を展開する。これらの2つの区分については、必修科目とする。「専門科目」については、自分が選択する研究分野・教科における教育課題や学習指導等を深く探究する機会を提供する。

・柔軟な履修制度による主体的な学びの支援

他学位プログラムの科目も柔軟に履修できる仕組みを整備する。これにより、学生一人ひとりが自らの研究テーマや興味・関心に応じて必要な科目を主体的に選択し、幅広い視野と高度な専門性を取得することを可能としている。

博士後期課程

・教育研究の柱となる領域

基礎教育学（教育心理学、道徳教育学、特別支援教育等）、国語科教育学、社会科教育学、算数・数学科教育学、理科教育学、体育科教育学の研究分野

・教育に関する共通科目および専門科目における体系的科目構成

「共通科目」については、博士論文作成の基礎的能力育成のために、教育学の典型的な学術論文を題材にした論文作成技法に関する科目を配置する。「専門科目」では、自分が選択する研究分野・教科における教育課題や学習指導等を追究し、新たな研究領域を開拓する機会を提供する。

保健医療学研究群

アスレティックトレーニング学学位プログラム

	博士前期課程
修業年限	2 年
募集人員	4 名
学位	修士（アスレティックトレーニング学）
修了要件	30 単位以上、実践課題学期小論文Ⅰ・Ⅱ（修士論文に代る研究成果物） 修士論文に代えて「実践課題学期小論文」を作成します。これは、実践的課題について背景・目的を明確にし、課題解決の方法や実施過程、結果ならびに考察・結論を論理的に記述するものです。

横浜・健志台キャンパス ※授業は集中講義や非対面形式等で実施する場合があります。

養成する人材

アスレティックトレーニング学を基盤に、主にスポーツ活動をしている者に対しコンディショニング（目的：パフォーマンスの向上 / スポーツ外傷・障害の予防）や救急対応を適切に計画・管理・指導できる、高度専門職人としてのアスレティックトレーナーや関連領域における研究者の人材を養成する。

学位プログラムの特色

・アスレティックトレーニングに必要な基礎知識から専門的学修までを体系化した教育課程

損傷したアスリートの一次救急からその復帰に至るトレーニングまでをカバーするアスレティックトレーニング分野は、幅広い知識と技能が要求される。そのために、医学等のアスレティックトレーニングに関わる基礎的な知識から、アスレティックトレーニングにおけるコンディショニングやスポーツ外傷予防学を専門的に学修、研究を遂行するための科目を配置する。

・教育研究の柱となる領域

アスレティックトレーニングを中心的な研究領域とし、その中でも特に、コンディショニング、リコンディショニング、スポーツ外傷予防、スポーツ障害予防を主なテーマとして取り上げる。

・柔軟な履修制度による主体的な学びの支援

他学位プログラムの科目も柔軟に履修できる仕組みを整備。これにより、学生一人ひとりが自らの研究テーマや興味・関心に応じて必要な科目を主体的に選択し、幅広い視野と高度な専門性を取得することを可能としている。



学位プログラム



保健医療学研究群

柔道整復学学位プログラム

	博士前期課程	博士後期課程
修業年限	2 年	3 年
募集人員	2 名	2 名
学位	修士（柔道整復学）	博士（柔道整復学）
修了要件	30 単位以上、修士論文	12 単位以上、博士論文

横浜・健志台キャンパス ※授業は集中講義や非対面形式等で実施する場合があります。

養成する人材

博士前期課程	柔道整復学に関する深い学識と倫理観、スポーツ領域における高度な専門的実践能力を兼ね備えた人材を養成する。さらに、臨床での課題を探索する研究能力、後進を指導する教育能力の基礎を併せ持ち、将来、柔道整復学の発展を多様な形で担う、指導的役割を果たせる人材を目指す。
博士後期課程	柔道整復学に関する卓越した研究能力と高度な教育・指導能力を兼ね備え、国際的に活躍できる人材を養成する。博士前期課程で培った能力を基盤に、独創的な研究を通じて新たなエビデンスを創出し、学術の発展と人々の well-being の向上に貢献する「自立した研究者」、ならびに次世代の専門家を育成する「高度な教育者・指導者」を目指す。

学位プログラムの特色

博士前期課程

・柔道整復学における基礎的学修から実践能力、研究基盤の体系的育成

柔道整復学の基盤となる基礎知識・技能を習得するための科目を充実させ、段階的に高度な内容を学べるようにカリキュラムを構成し、臨床実習や現場実習、演習を豊富に導入し、実践的な能力を育成する。また、将来、博士課程でさらに探求を深めるための研究能力の基盤を確立するため、研究方法論、論文作成法などの科目を配置する。

・教育研究の柱となる領域

学部教育で培った柔道整復学の基幹的知識・技能を土台とし、柔道整復の高度専門職業人および将来の博士課程での研究活動の基盤を有する研究者の育成を目指し、教育研究の柱として「高度臨床実践領域」「スポーツ医科学融合領域」「教育・研究基盤領域」の3つを掲げる。これらの柱の上に柔道整復学の高度化と実践の展開を築く、これらにより、高度な専門知識・技能と研究マインドを涵養し、柔道整復の発展に貢献できる人材を育成する。

・柔軟な履修制度による主体的な学びの支援

他学位プログラムの科目も柔軟に履修できる仕組みを整備。これにより、学生一人ひとりが自らの研究テーマや興味・関心に応じて必要な科目を主体的に選択し、幅広い視野と高度な専門性を取得することを可能としている。

博士後期課程

・独創的研究の推進

修士課程で培った専門知識と研究遂行力を基盤に、博士論文の作成プロセスを重視し、自立して独創的研究を企画・推進する力を育成できる科目を配置している。

・教育研究の柱となる領域

柔道整復の高度専門職業人および将来の博士課程での研究活動の基盤を有する研究者の育成を目指し、教育研究の柱として以下の3つを掲げる。これらの柱の上に柔道整復学の高度化と実践の展開を築く、これらにより、高度な専門知識・技能と研究マインドを涵養し、柔道整復の発展に貢献できる人材を育成する。

柱1：先端・学際研究領域

柔道整復学の新たな領域を切り開く先端研究を軸に、医学・スポーツ医科学・工学などとの学際連携を進めつつ、運動器の健康を予防からリハビリ・パフォーマンス向上まで包括的に探究する領域。

柱2：国際的リーダーシップ涵養領域

柔道整復学を国際的視点から発展させ、国際協働やグローバルな医療課題への貢献を推進し、異文化理解と国際社会で活躍するための能力を育成する領域。

柱3：次世代教育・研究創造領域

柔道整復教育の未来を創る研究を中心に、教育工学やAIなどの先端技術を活用した教育方法を開発し、将来の研究者・教育者を育成する高度な指導法を探究する領域。

保健医療学研究群

救急災害医療学学位プログラム

	博士前期課程	博士後期課程
修業年限	2 年	3 年
募集人員	4 名	2 名
学位	修士（救急災害医療学）	博士（救急災害医療学）
修了要件	30 単位以上、修士論文	12 単位以上、博士論文

横浜・健志台キャンパス ※授業は集中講義や非対面形式等で実施する場合があります。

養成する人材

博士前期課程	体育・スポーツ現場や大規模イベントにおける救護から救急医療までの一連の対応に精通し、臨床推論に基づく的確な判断と初期対応ができる人材を養成する。さらに、災害発生時に求められる体制整備や多数傷病者対応、資源配分、多職種連携に対応できる人材を養成する。加えて、救急・災害医療に関する教育内容と教授法を修得し、指導力と国際的視野を備えた人材を養成する。
博士後期課程	災害・救急領域の学際的視点と臨床知見を結び付けることで、高度な専門性と総合的理解力を養う。さらに、国際的な救急・災害医療体制の違いを踏まえた対応力や比較分析力を涵養し、研究課題の設定から実証的検討、論文作成までの研究遂行力を重視する。また、学会発表を通じてプレゼンテーション能力や科学的コミュニケーション力を高めるとともに、教育者としての指導力と課題解決力の育成も図る。

学位プログラムの特色

博士前期課程

・教育研究の柱となる領域

- 救急医療・蘇生科学：救急医学・蘇生学の基礎と技術を修得し、病院前救急医療や質の高い心肺蘇生法（HP-CPR）の実践力を養う。
- 災害医療・危機管理：トリアージ、避難所医療、感染症対策など災害時に必要な対応を学び、事業継続計画（BCP）の策定・運用能力を高める。
- 救急災害ロジスティクスと地域医療システム：人材・物資・情報の管理方法を理解し、地域包括ケアや在宅医療と連携した救急医療体制の構築をめざす。
- AI・データサイエンスの応用：AIによる診断支援、医療データ解析、危機管理シミュレーションを取り入れ、救急・災害医療の最適化と高度化を図る。

・救急・災害医療の専門性・実践力・国際性を体系的に育成する教育課程

本プログラムは、心身の健康維持に関する知識を基盤に、救急・災害医療、スポーツ大会や大規模イベントでの医療対応、災害時の多数傷病者対応、海外で活躍できる専門家の育成を目的とし、次の特色を備える。

- 救急・災害医療の専門教育：救急医学、災害医療学、危機管理学などに特化した学習プログラムを提供し、臨床現場に即した実践的教育を重視する。
- 実践的トレーニングとシミュレーション教育：シミュレーションや災害対応訓練を通して判断力・対応力を強化し、BCP策定演習やイベント医療のシミュレーションも実施する。
- 国際的視点を持つ人材の育成：海外医療機関との連携による研修・フィールドワークを行い、医療英語やグローバルヘルス教育を通じて国際的な実践力を育成する。
- AI・データサイエンスを活用した教育：AIによる医療データ解析やリスクマネジメント、医療シミュレーションを導入し、データ駆動型医療の実現をめざす。

・柔軟な履修制度による主体的な学びの支援

他学位プログラムの科目も柔軟に履修できる仕組みを整備。これにより、学生一人ひとりが自らの研究テーマや興味・関心に応じて必要な科目を主体的に選択し、幅広い視野と高度な専門性を取得することを可能としている。

博士後期課程

・教育研究の柱となる領域

- 本博士課程の研究領域は、救急・災害医療および危機管理の高度な専門性を涵養し、学際的な視点を持つ研究を推進するため、以下の3つの領域を柱とする。
- 救急・災害医療の高度化とエビデンス創出：救急医療および災害医療の新たな治療戦略、トリアージシステムの最適化、医療体制の強化に関する研究。救急・災害時の医療資源配分と意思決定の最適化に関する研究。
 - 危機管理と災害対応の最適化：事業継続計画（BCP）、災害時の指揮統制、医療ロジスティクスの最適化に関する研究。災害時の情報管理、意思決定支援システム、AI・シミュレーション技術の活用による危機管理の高度化。
 - 国際災害対応と政策形成：国際救急・災害医療システムの比較研究と政策評価。国際的な危機管理システムの設計と国際連携の強化に関する研究。

・実践と理論を統合した高度専門教育

医療、危機管理、ロジスティクス、国際政策の分野を網羅し、分野横断的な教育を実施する。救急・災害医療に関する実証的研究を通じて、新たな知見を創出する能力を養成する。

・先端技術の活用

AIやシミュレーション技術を活用した訓練・研究を推進し、災害時の迅速な意思決定やリスク評価を実践する。ビッグデータを活用した救急・災害医療の予測モデルや政策評価を行う。

・国際的視野を持つリーダーの育成

海外の大学・研究機関との共同研究等を通じて、国際的な災害対応・救急医療システムの比較研究を行う。国際学会での研究発表や国際機関での実地研修を通じて、グローバルな視野を持つ専門家を育成する。

・研究者・教育者の育成

博士論文の執筆を通じて、独創的な研究を推進する能力を養う。高等教育機関や医療機関で指導的役割を果たせるよう、教育方法論や指導技術を学ぶ。



育志賞受賞

東京・世田谷 キャンパス

体育学部

スポーツ文化学部

児童スポーツ教育学部



多目的グラウンド

人工芝の上には各種競技用のラインが引かれ、さまざまな競技が実施可能なグラウンド。100m走路も併設されています。



小体育館(相撲場)

第75代横綱、大の里間も4年間練習をした、伝統ある相撲場。専用のまわし乾燥室、浴室等を併設。



ランニング走路

スポーツ棟の3階に設置。メインアリーナを囲む、1周約240mのブルータータントラックです。



中央測定室

主に大学院の研究で使われる施設です。さまざまな測定機材が置いてあり、最先端の研究がここでは行われています。



大教室

200人が入れる大教室のほか、大小用途に合わせた教室があります。



記念講堂

記念講堂には600人以上を収容可能。席は可動式で、収納時には体育館、展開時には講演や式典などの行事用の講堂として利用できます。



福祉演習室・介護実習室

病院や介護施設と同等の設備が備った実習室で、質の高い介護実習を行うことができます。



保育演習室

幼児教育保育コースの専用演習室として使用。日々、実際の現場を想定した実践的な授業が行われています。



コンピューター室

充実したIT環境で学生の活動を支援。学業や研究のほか、さまざまな用途に利用することができます。



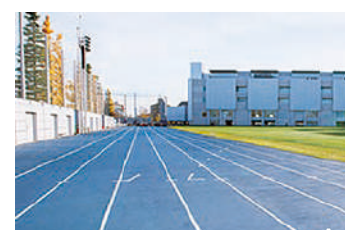
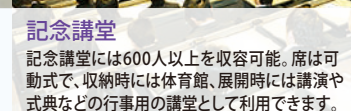
学生食堂

500人以上が同時に利用可能。リーズナブルながらも栄養学に基づいたメニューを取り揃えています。



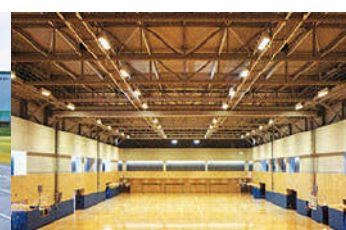
ブロンズ像「EOS」

文化勲章受章者・中村晋也の代表作。躍動感あふれる名馬が、古代ギリシャのオリンピック種目・戦車競走の戦車を全力疾走で引きまわっています。



100m走路

目に優しく、心理的に落ち着きをもたらすといわれているブルータータンを採用。



メインアリーナ

部活動や式典など、多機能スペースとして活用。通常は電動間仕切りで2つの空間に区切られ、バスケットボール部やバレーボール部などが使用。



中体育館(体操場)

写真の体操場をはじめ、小体育館と中体育館、合わせて14の体育館を完備。それぞれの部が快適に活動できるよう、こだわりが随所に盛り込まれています。



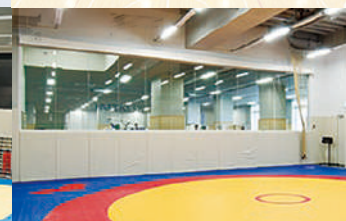
多目的プール

中体育館3つとともに、スポーツ棟の地下に併設。短水路25mが7レーン設けられています。



中体育館(柔道場)

290畳の広さを誇り、公式の練習場が3面とれる大きさとなっています。



小体育館(レスリング場)

授業などでも使用する、本格的な専用のレスリング場です。壁にはシンボルのライオンが描かれています。



小体育館(トランポリン場)

天井の高さ10mのトランポリン専用体育館。安全に練習するためのバンジーも設置されています。



小体育館(ダンス場)

二重窓で遮音性も考慮した設計のため、音楽もダンスも存分に楽しむことができます。



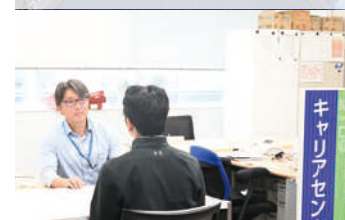
スポーツトレーニングセンター

年間で延べ10万人以上が利用。トップアスリートの競技力向上や、学生の基礎体力づくりの理論・実践の研究に活用されています。



図書館

体育スポーツ関連の専門書は日本屈指の蔵書数を誇り、学外の利用者も多いのが特徴です。



キャリアセンター

就活・就職サポートの拠点で、専任スタッフ、キャリアカウンセラーが常駐し、職種別にキャリア支援行事を開催しています。

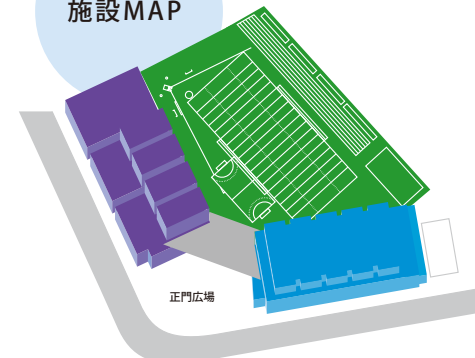
アスリートと研究者の学びを支える“世界水準”の環境

都心に近い、桜並木と小川に沿った閑静な住宅街にある東京・世田谷キャンパス。「身体にまつわる文化と科学の総合大学」にふさわしい最先端の施設を備え、アスリートにとっても研究者にとっても“世界水準”で学べる環境が整っています。また、文化としての体育スポーツを国内外に発信し、広く社会に貢献するための情報センターという役割も担っています。

スポーツ科学研究の場

教育研究棟、多目的グラウンド、スポーツ棟の3つのエリアから成り、実技と研究のための充実した設備が整っている東京・世田谷キャンパス。教育研究棟のエントランスには、日体大の象徴であるプロンズ像「EOS」が鎮座しています。

施設MAP



- 教育研究棟
 - 図書館／コンピューター室／保育演習室／福祉演習室／介護実習室など
- 多目的グラウンド
- スポーツ棟
 - メインアリーナ／中体育館／小体育館／多目的プール／スポーツトレーニングセンターなど

- 施設概要
- 住居表示 東京都世田谷区深沢七丁目1-1
 - 敷地面積 39,894.68m²
 - 建築面積 15,221.20m²
 - 延床面積 56,582.07m²
 - 階数 地下2階・地上6階・塔屋2階
 - 構造種別 鉄骨鉄筋コンクリート造・鉄筋コンクリート造・鉄骨造
 - 付帯施設
 - みずほ銀行ATM ■ 学生サポートデスク
 - 店舗(ローソン、三省堂、ササキスポーツ)

スマホやPCで
バーチャル見学もできます。



360°画像で
キャンパスツアー体験

★マークが付いている施設は下のQRコードから楽しめる「360°View」でも紹介しています。



気になる施設を
3D映像で見学

QRコードが付いている施設は3D映像でもご紹介しています。現実には見られない真上からの眺めなど、さまざまな角度からのぞいてみてください。

ドローン撮影による
キャンパス紹介
ムービーです。
ぜひご覧ください。



横浜・健志台 キャンパス

体育学部

スポーツマネジメント学部

保健医療学部



米本記念体育館(第Iアリーナ)
2階部分は可動式の観覧席で、1,500人を収容可能。普段は収納され、走路として使用されています。米本記念体育館には第Iから第IIIまでの3つのアリーナを併設。



ゴルフ教場
多くのプロゴルファーも練習をしていたゴルフ練習場。14打席が設置され、バター練習場も併設しています。



ラグビー場
観客席や更衣室・シャワー室が設置されたクラブハウスもあります。

ドローン撮影による
キャンパス紹介
ムービーです。
ぜひご覧ください。

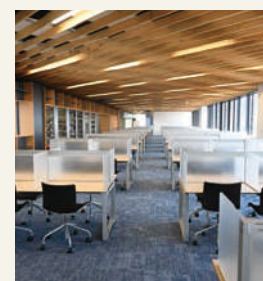


公式大会で利用できる施設が揃った“スポーツの聖地”

豊かな緑に囲まれた、約17万㎡もの広さを誇る横浜・健志台キャンパス。東京・世田谷キャンパスの4倍以上の敷地のなかには、教室や研究室をはじめ、4棟の体育館、陸上競技場、プール、専用競技場など、各種体育スポーツ施設が揃っています。トレーニングセンターなども備えた、スポーツに打ち込むのに最適な環境です。



5号館



地上7階建ての施設で、主に研究室やゼミ室、教室などのスペースが確保されるほか、1階には学生食堂、最上階の7階にはスポーツや身体に関する書籍が揃う図書館が整備され、学生にとってより快適な学習環境を提供します。



野球場
キャンパスの奥に併設された野球グラウンド。観戦用スタンドやナイター設備も完備され、首都大学野球リーグの開催球場としても使用されています。



米本記念体育館(レスリング場・剣道場)
半面はレスリング場として専用のマットが敷いてあり、もう半面は多目的スペースとして使用されています。レスリングや剣道の授業などで利用されています。



サッカー場
全面に人工芝を使用したサッカー専用ピッチ。500人を収容できる観客席も設けられた、本格的な競技用施設です。



プール
屋外温水プールで、競泳・水球用の50mと、水深5mの飛込専用プールがあります。ダイビングの事前実習時にも使用されます。



スポーツトレーニングセンター
多くの人が待たずに一度で利用できるよう、豊富な種類のマシンを数多く設置しています。



第一体育館
最も多くの先輩たちが汗を流してきた伝統ある体育館です。柔道場も併設されています。



アーチェリー場
公式戦にも対応した90mの射場です。防音・防風・防雨対策が施され、天候にかかわらず、いつでも練習が可能です。



1402教室
扇形に広がる階段型の教室。授業のほか、講演会や各種イベントなど、さまざまな用途で使用されています。



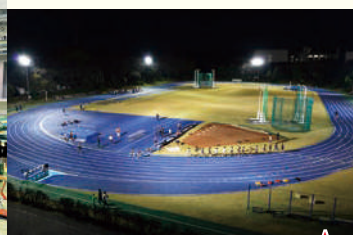
テニスコート
広い敷地内には、全天候型の硬式用コートが2面、ソフトテニス用が4面設置されています。



ビーチバレーコート
2017年に設置された大学としては全国的にもめずらしい施設です。ビーチバレーは五輪種目です。



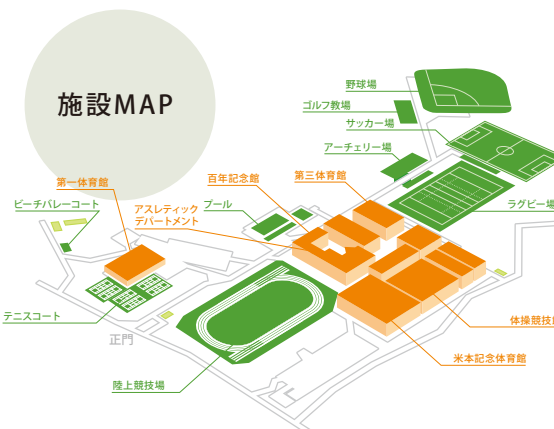
体操競技場
体操競技専用の体育館。大学としては全国レベルの充実した施設で、公式試合に使用されるものと同様の器具が揃っています。



陸上競技場
国内大会が開催できる公認施設。全面にブルトラックを採用し、全天候型の400mトラックやナイター設備も完備しています。

スポーツ文化創造の場

教室や健康管理センター、スポーツトレーニングセンターなどが併設された百年記念館を中心に、各種スポーツ施設を完備。図書館なども用意され、学生は安心して学修、クラブ活動に打ち込めます。



施設概要

住居表示 神奈川県横浜市青葉区

鴨志田町1221-1

敷地面積 172,341.89㎡

建築面積 21,793.18㎡

(12棟体育館など含む)

延床面積 56,582.07㎡

構造種別 陸上競技場、プール棟(50m、飛込)、野球場、サッカー場、ラグビー場、テニスコート、ゴルフ教場、アーチェリー場

付帯施設

■ みずほ銀行ATM ■ 学生サポートデスク
■ 店舗(三省堂、ササキスポーツ、ローソン、スポーツデポ)

スマホやPCで
バーチャル見学もできます。



360°画像で
キャンパスツアー体験

★マークが付いている施設は下のQRコードから楽しめる「360°View」でも紹介しています。



気になる施設を
3D映像で見学

QRコードが付いている施設は3D映像でもご紹介しています。現実には見られない真上からの眺めなど、さまざまな角度からのぞいてみてください。

最先端の環境で、学び、研究し、実践する。

施設紹介

FACILITY GUIDE

研究と学びを支える
充実した設備と環境。
学生一人ひとりの挑戦と
成長を支えます。

01 中央測定室

約400平米ほどの広さがあります。中央にはタータン、周囲にはキャットウォークが配置され、様々なバイオメカニクスの測定が可能です。筋力測定装置なども配置されており、多用途利用が可能な測定室です。

02 自習室

文献調査や学位論文の執筆など、研究活動に集中して取り組める環境を備えています。



03 生化学実験室

血液・組織を対象とした生化学的検査、病理学的検査、遺伝子検査等を実施できる環境を整備しています。



04 人工気候室

トレッドミルが設置されていて、人工的に温度や湿度を任意に変化させた特定環境下でのパフォーマンス測定を行うことができます。



05 動物飼育実験室

実験用小動物（マウス・ラット）の飼育・管理を行い、基礎的研究に活用されています。



06 MRI室

主に筋肉の形状あるいは体組成などを非侵襲的に測定し、研究するために使用されます。



07 臨地実習室

救急医療に関するさまざまなシミュレーション実習を行います。



08 スポーツ・キュアセンター

スポーツ外傷・障害の診療を行うとともに、臨床実習・研修や柔道整復分野の臨床研究に活用されています。

